

主な感染症一覧

くすの木会 LINO

本人及び同居の方が感染症に罹患された場合は、下記一覧表の**通所できる目安**を基準に通所の可否を判断させていただきます。
 その際は、お電話にて施設の看護師が聞き取りさせていただきますのでよろしくお願いいたします。
 下記の感染症の一覧は、**学校感染症一覧**を参考にしています。※第一種学校感染症（出席停止）は除く。

病名	疾患の特徴、周囲への伝染力など	感染経路	潜伏期間	感染期間	通所できる目安
インフルエンザ	急な発熱、関節や筋肉の痛み、全身怠倦感、咳・鼻水・のどの痛み 近年、37℃～の報告あり	気道 接触 飛沫	1～3日	発病後3～4日	発症してから5日間、かつ、解熱して2日間(幼児は3日間)経過した後
百日咳	感冒様症状からはじまり、コンコンという短い激しい咳が続く 3歳以下の乳児は肺炎を合併することがある	飛沫 気道	1～2週	1～4週	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌薬による治療が終了した後
麻疹(はしか)	発熱・鼻水・目やに・発疹・くしゃみ	飛沫 気道 接触	9～12日	発疹の出現の前後 4～5日	熱が下がって3日を経過した後
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発熱、耳の前下部の腫れと痛み(押すと痛む)思春期以降の感染では、睾丸炎、卵巣炎の合併に注意	飛沫	2～3週	耳下腺の腫れる前 7日～腫れた後9日間	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫張が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好となった後
風疹(三日はしか)	38℃前後の発熱、発疹、リンパ節の腫れ 妊娠初期の感染は、奇形児出産率が高い	飛沫 気道	2～3週	発疹が出る前に7日～出た後7日間	発疹が消失後
水痘(水ぼうそう)	発疹→水泡→かさぶた。軽い発疹	飛沫 気道 接触	2～3週	発疹が出るまでの前の1日～すけての発疹がかさぶたになるまで	すけての発疹がかさぶたになった後
咽頭結膜炎(プール熱)	38℃～40℃の発熱・のどの痛み・目やに・結膜の充血。医師の許可があるまでプールには入らない	気道 接触 (結膜)	5～7週	発病してから2～4週間	主な症状がなくなつて2日を経過した後
結核	発熱・咳・咯血・疲労・体重減少など 結核性髄膜炎に注意。圧倒的に肺結核が多い	気道	4～6週	喀痰塗抹検査が陽性の間	医師から感染の恐れがないと認められた後
流行性結膜炎(はやり目)	目の異物感・充血・まぶたの腫れ・目やに・瞳孔に点状の濁り。医師の許可があるまでプールには入らない	接触	4～10日	発病してから約2週間	
急性出血性結膜炎(アポロ病)	目の激しい痛み、結膜が赤くなる・異物感・涙が出る	接触	1～2日	発病してから5～7日	
腸管出血性大腸菌感染症(O-157)	激しい腹痛・水様性の下痢・血便 溶血性尿毒症症候群などの合併症に注意	経口	4～8日	便中に菌が排せつされている間	
ヘルパンギーナ	高熱(38～39℃)・咽頭発赤・喉の奥に小さな水疱瘡、夏風邪の一つ。ウイルスは便中にも出るのでオムツの交換時には注意	飛沫 接触	2～4日	解熱し、食事も十分に出来て元気になるまで	
溶連菌感染症	発熱(39℃前後)・発疹・扁桃発赤・腫腸・咽頭痛・いちご舌など	飛沫	2～5日	2～5日	
マイコプラズマ感染症	しつこい咳と肺炎が特徴。発熱と咳が強い間は安静と治療が必要	飛沫	2～3週	発病から4～6週	
流行性嘔吐下痢症(乳児嘔吐下痢症)(白色便性下痢症)	ロタウイルスによる嘔吐と下痢を起こす疾患。冬に多く、食中毒に似た流行を起こすことがある	経口 飛沫	不定期	症状がある間	
感染症胃腸炎	ノロウイルス等のウイルス感染による胃や腸の炎症の総称。吐き気・嘔吐・下痢・腹痛・発熱などが見られる	経口 飛沫	1～2日	症状がある間	
伝染性紅斑(リンゴ病)	両頬に少し盛り上がったじんましんのような発疹・発熱	飛沫	1～2週	(症状出現後は感染力が弱い)	
手足口病	軽い発熱(2～3日)、小さな水疱が口の中や手足にできる。ウイルスは便中にも出る	飛沫	3～5日	症状がある間	
RSウイルス感染症	発熱・鼻水・目やに・発疹・くしゃみ咳・喘鳴・呼吸困難	飛沫 接触	2～8日	症状前～3週間	
とびひ(伝染性膿痂疹)(皮膚化膿症)	細菌性の皮膚感染症 皮膚の清潔に心がけ、病変のある皮膚が他者と接触しないように気を付ける	接触 (水泡の分泌物)	2～5日	水泡から膿の出る前	
アタマジラミ	枕、タオル、くしなどの共用はさける。頭髮の卵を見つけて取り除く。駆除剤等を使用する		1ヵ月	駆除が完了するまで	通所は可能ですが、他社に感染がないように配慮し対応させていただきます。入浴や水遊びなどは控えて頂く場合があります。
水いぼ	ウイルス性でイボの白い内容が付着するとうつるが、免疫が出来れば消失する。水を介しての感染はないが、皮膚の接触を避ける為、患部を医療用の防水シートで覆う等の処置が必要		2～7週		

※「発病後〇日」は発病した日を含まず、「解熱後△日」は解熱した日を含みません。

※記載されていない病気に関しても、通院後の診断は必ず申告してください。

※子どもの平熱は一般的に高いものですが、平熱の高い子でも「37.5度以上は発熱」と捉えます。